

芸術・文化施設

◆ 津山洋学資料館

1. 施設概要

津山及び美作は、江戸時代の後期から明治の初めにかけて、著名な洋学者を輩出し、我が国の学術発展に大きな業績を残している。昭和53年3月に開館した当館では、これら郷土の洋学資料を収集・保存し、調査・研究するとともに、公開展示を行ってきた。現在、新館への移転作業のため、平成22年3月まで休館中である。

- 新館所在地：津山市西新町5番地
- 構造：鉄筋コンクリート造平屋建
- 敷地面積：3,487.23㎡
- 建築面積：1,401.27㎡
- 職員：5名（うち2名嘱託）



▲新洋学資料館完成予想図

2. 収蔵資料の概要

区 分	件 数	点 数	区 分	件 数	点 数
文 書	2,597	4,075	写 真	167	221
書 簡	456	459	拓 本	53	78
賞状・辞令・勲記	95	98	研 究 資 料	50	258
書 跡	367	508	遺 稿	49	49
絵 画	55	59	複 製	221	334
医 療 器 具	17	90			
民 俗	142	231	合 計	4,269	6,460

一般・研究図書 1,690冊

3. 収蔵資料の内容

津山の洋学者の代表的家系である宇田川家・箕作家の資料のうち、宇田川玄随『西説内科撰要』、宇田川玄真『医範提綱』、宇田川榕菴『植学啓原』『舎密開宗』、箕作阮甫『泰西名医彙講』『和蘭文典』、箕作省吾『坤輿図識』などを所蔵するほか、有名な『解体新書』、小林家の杉田玄白直筆書簡、仁木家医療器具などの寄託を受けて保管している。

◆ 津山郷土博物館

1. 施設概要

津山を中心とする美作地方の文化財を収集・保管・研究し、その成果を広く一般に公開することを目的としている。建物は昭和8年に竣工した旧津山市庁舎を増改築して、昭和63年4月に開館したものである。平成18年11月9日、国の登録有形文化財になる。

- ◇所在地 津山市山下92番地
- ◇敷地面積 2,604.30㎡
- ◇延床面積 1,997.12㎡
- ◇構造 鉄筋コンクリート造（地上3階、地下1階）
- ◇職員 5名（うち2名は非常勤嘱託）

2. 開館時間

午前9時から午後5時まで（ただし入館は午後4時30分まで）

3. 休館日

月曜日、祝日の翌日、12月27日から1月4日まで、その他

4. 入館料

一般210円（160円）/高校・大学生150円（120円）

※（ ）内は30名以上の団体料金

5. 収蔵資料

化石資料	248点	絵図資料	289点
考古資料	4,288点	典籍	14,200点
文書資料	40,362点	文学資料	1,042点
a近世文書	25,914点	美術・工芸資料	2,026点
b近・現代文書	14,448点	合計	62,398点

6. 常設展示

「美作の歴史と文化」を統一テーマとし、7つの大テーマと17の小テーマで、美作の地質時代から現代までの歩みを通史的に展示している。

大テーマ	小テーマ	主な展示資料
美作の自然と風土		・パレオパラドキシア骨格復元模型・化石
美作のあけぼの	1 狩猟と採集の生活 2 津山の弥生文化 3 古墳の時代	・恩原遺跡の地層転写・旧石器・縄文土器 ・弥生土器・石器・鉄器・銅鐸 ・鏡・須恵器・埴輪・陶棺
古代国家と美作	1 美作国の成立 2 美作国分寺 3 古代の鉄生産	・円面硯・墨書土器・木簡（複製）・軒丸瓦 ・軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・八稜鏡・石帯 ・鍛冶炉・鉄滓・鉄器・木簡（複製）
武士の争いと宗教	1 荘園・武士・宗教 2 中世の庶民生活 3 戦国の争乱	・法然上人行状絵図（複製）・後醍醐天皇綸旨（複製） ・勝間田焼・宋銭 ・毛利輝元書状・小早川隆景書状
津山藩と民衆	1 津山城と城下町 2 町の生活 3 村の生活 4 森氏と松平氏	・津山城復元模型・津山城絵図・津山城本丸瓦 ・髪油屋看板・卸売免札・火消装束 ・郷中御条目・人別放手形 ・森忠政知行状・国元日記・町奉行日記・大名駕籠
郷土の百年	1 民衆運動 2 学校の歩み 3 近代の文化と人物 4 津山市の移りかわり	・自由党美作部印・立憲自由党加盟簿・立石岐書簡 ・卒業証書・小学生徒心得・小学校教科書 ・美作略史草稿・尾上柴舟短歌・西東三鬼俳句 ・美作津山市街図
美作の美術・工芸		・大身槍・江戸一目図屏風・竜虎図